

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4393100013		
法人名	株式会社 ケア サポート		
事業所名	グループホーム若葉園(北館)		
所在地	熊本県球磨郡多良木町多良木1537		
自己評価作成日	平成29年2月5日	評価結果市町村受理日	平成29年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本3丁目13-12-205号
訪問調査日	平成29年2月22日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

多良木駅から徒歩で3分のところに位置し、周りにはえびす温泉、えびす物産館、多目的グラウンド等が集まり、環境にはやさしい雰囲気があり利用者の皆様のケアには大変すばらしいところです。同敷地内に小規模多機能ホームわかば園があり、敬老会、運動会などお互いに行き来し交流を深めています。また小規模のホームの隣には共生施設があり、放課後学童保育が行われています。子供たちの「ただいま～」の声を聞く事を楽しみに学校から帰ってくるのを皆さん待っていらっしゃいます。学童の子供たちは、夏休みや行事があるたびに駆けつけてくれ、高齢者とのふれあいを大切にしてくれています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

共生施設が隣接するという特徴あるホームは、平成18年の開所時から近隣グラウンドへの散歩や物産館での食材購入をはじめ、法人主催の『若葉園杯グラウンドゴルフ』を開催する等入居者が地域の中で生きる事の支援、及び地域への還元も視野にした取り組み等施設長のリーダーシップのもと職員が心ひとつに真摯に取り組んでいる。外観をはじめ共用空間の配置など異なるそれぞれのユニットでは、入居者の状況に応じた室内環境や食事・排泄支援など職員間でケアの共有により安定した日常生活を支えている。また、定期的な往診に加え、急変時や休日にも速やかな対応をいただく協力医の存在は大きく、施設長をはじめ職員は感謝を寄せている。入居者の手際良さが食後の洗い物に表れ、幼少の頃の思い出を昨日のここのように鮮明に話続けられる入居者の表情からも穏やかな日常が伝わってきた。今後も地域の中で入居者・家族を支えるホームとして活躍されることを期待したい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果(北館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	6つの理念を掲げていますが、この6つを理解できると、介護という仕事の本質性や重要性がわかり、利用者の気持ち、職員のスキルアップ等に繋がると日頃より話しています。	開設当初からの理念は、地域密着型事業所としての意義・役割や職員へのケア規範が定められている。職員が入職を考える視点でもあるとして、まずは理念の説明を行っている。職員個々のモチベーションの道しるべや、年間の自己評価での振り返りと、次年度の目標設定の指標として理念を捉えている。運営推進会議等を通じ、地域の中への啓発も行き届いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、祭り等に参加したり、学童保育や共生施設の利用によりグループホームにも出入りが増えてきている。町内はもとより、町外からの体験学習の受け入れも、交流は確実に増えている。	併設の共生施設という環境と生かし、学童保育・養護施設・高校生やボランティアの訪問等による交流に取り組んでいる。地区の総会への参加や夜警に回る消防団との関係が築かれている。施設長による地域の寄り合いでの認知症啓発や、毎月のサロン開催等地域との接点を更に増やしたいと意欲的であり、今後の展開に大いに期待される。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	若葉園グラウンドゴルフ大会は今年は震災のため中止しました。地区の寄り合い等に参加した時には、短時間の認知症の話を見せてもらっている。町の民生委員の研修時当施設でおこなわれ、認知症の特徴、行動等話しています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーは行政、地域包括、区長、民生委員、家族代表、利用者代表と多彩で、全員の方を指名し意見を述べてもらいます。今年は拘束、虐待について沢山の意見をいただいて活発に活動をしています。	2ヶ月毎と常態化した運営推進会議は、運営状況や入居者の状況を詳細に報告し、質疑応答が行われている。身体拘束の考え方や外部評価の捉え方や評価結果等活発に討論されている。また入居者も参加される等メンバー構成も充実し、ホームからは発信できない事案も、ホームをよく理解されている地域代表が代弁される等地域住民とのかかわりの深さも表れている。日程上参加が難しい家族にも情報を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場が大変近くにあるので、行政からの情報等は直ぐに連絡をいただいています。園からは、電話等でも報告を聞いて頂いたり、また、役場に出かけ相談等を気軽にしております。	近くにある役場という立地的な環境にあり、問題と思える事案発生には担当部署に相談に足を運ぶ、適切なアドバイスを得ている。県からの情報など電話やメールにより把握している。運営推進会議のも毎回参加を得られ、行政の立場での意見が発信される等行政との良好な関係性にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の尊厳を第一に、身体拘束、虐待の勉強会を今年度は力を入れて行い、実践に繋がっている。また、問題行動は何が原因かをフタッフで話し合い寄り添うことで心のケアにつとめています。	身体拘束・虐待しないこと、及び事故ゼロを目指すことを掲げたホームであるが、今年度は特に身体拘束問題を徹底して討議している。身体拘束等について職員個々に問題を提議し、身近に調べることで意識を強化させている。転倒予防の為にモーションセンサーも拘束として捉え、解除を目的に鋭意検討するとして家族の同意を得ており、気配り・目配りを強化している。また、管理者は職員に言葉での封じ込めが無いよう注意喚起することを指導している。	拘束の実例はないものの、職員の意識強化に努め、運営推進会議の中でも討議されている。年齢的にも転倒という問題に直面し、安全性を高める工夫という観点からの“事故ゼロ”を目標に懸命なケアに努められている。今後も安心・安楽な日常を支援されることと期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修で学んだことは運営推進会議や社内研修時に報告をし、虐待に対する考え方を認識してもらっている。また、手のあざ等介護際につく内出血等、介護の工夫も話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本人が自らの意思を表現できるように、感情や顔の表情に注意しながら支援をおこなっている。成年後見制度の利用はないが、研修会に参加し、社内ミーティングにて制度について話をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には契約書、重要事項説明書の内容を十分に説明し、看とりに関しては主治医、家族、職員同時にカンファレンスを行い、家族の意向を十分に聞き取り進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の方とコミュニケーションをとり意見を聞きだす事に努めている。また、管理者が面会の家族に直接対話し、要望等伺っている。また、家族会が中断となって居りますので復活を目標に考えています。	入居者は平均年齢91歳という高齢化に要望等は多くは出されないが、読みたい新聞等に応じている。家族には毎月管理者及び担当職員による報告書により情報を発信し、訪問時等要望等を収集しており、転倒骨折の無い日常や、笑顔を見れることへの感謝の気持ち等が出されている。また、運営推進会議も問題提起の場としている。	家族会の再開に向けご尽力いただき、今後も家族の忌憚の無い意見や要望を収集し、サービスに反映いただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体朝礼の時に代表者は経営や運営の意向を伝えまた、各棟のミーティングを行い要望や問題等を、リーダーミーティングの際には相談や意見を受け入れてもらっている。	日々の朝礼時やリーダーミーティングを通して経営者に職員の提案・意見(消耗品等の物品)を上申することとし、経営面・感染予防・事故の無いように等が職員へ発信されている。また、管理者として職員が意見や要望を出しやすい職場環境を作り、職員の諸事情による希望休や、風通しの良い関係性を作り上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の個々の能力を出せるような研修参加や環境を作りを行い出来るだけ残業等はしないように退帰時間の厳守を指導している。処遇改善手当は毎月の基本給に手当として加算して生活給として支払をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修はもとより資格取得の費用を全額会社負担とし、仕事に対するやる気と自信を持ちながら業務に就けるように支援をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ではグループホーム協議会が組織され2ヶ月に1回の研修会と、12月には忘年会が開催され、交流も盛んである。また、各GHを利用者と一緒に訪問し交流を行っています。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所まえの聞き取りを参考に本人と家族の不安、要望を聞き取り、安心して生活できるようにカンファレンスにて介護の統一をはかりプランに反映をさせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より家族の方に園内見学をしてもらい園での雰囲気を感じてもらっている。月末に一月分の利用者の方の生活、体調、行事等、担当者が書面にて報告をしている。病気、事故等はその都度連絡を入れています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所直後、暫くは頻繁に連絡を取り合ったり面会を促したりして利用者の方が一日でも早く落ち着き、早くなれていただくように支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできること(掃除、洗濯物干し、たたみ野菜の皮むき、刻み)などできることを職員と一緒にしたり、他利用者のお世話をしている場面も見られます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事ごとに家族の方をご案内し、利用者、家族、職員の信頼関係をつくりお互いに何でも言える環境を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	知人面会時には記念写真をとり双方に渡し、再度の来園をうながしたり、出身地域へのバスハイク、多良木町のえびす祭り等に参加し神輿の声援なども行っている。親戚関係の集まりの時は家族または職員が付き添いで出かける支援をしている。	入居者の生活圏であった地域の祭りや神社仏閣への外出、墓参・法事や命日の仏さま参りなど職員及び家族により継続した支援が行われている。家族や知人の訪問の際には写真に収め再園をお願いする等これまでの人・場所とのかかわりが途絶えないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個々の性格や意向を汲み取り、席の配置をかんがえて気分良く生活をしていただいている。利用者間のトラブルの際は職員が直ぐに間に入る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、定期的に病院、施設を訪問し面会をし、そのたびに家族との連絡をとりあっている。また相談にも対応をしています。家族の家の近くに行った際はご自宅を訪問し過去の思い出をおはなしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメントにより本人の希望、意向を確認し、入居後も必要時にカンファレンスを実施し本人の意向の把握するように努めている。意思の疎通が困難な場合は家族との意見交換や入居後の行動、表情などで判断している。職員に合わせた介護でなく本人主体で支援しています。	アセスメントでの情報や、日々の生活の中での表情や行動などによる推察や、職員の気づきを総合的に判断しながらケアに反映させている。日々のゆっくりとした時間帯の中で、自らが判断・決定できるような声かけを行い、入居者本位の生活になるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の本人、家族、CM等のアセスメントにて生活歴、嗜好、サービス利用の過程等詳しく聞き取り把握をしている。また面会のときに職員からの生活パターンを再確認をしたり、様子を見ながらサービスの変更をしながら本人が快適に暮らせるように支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	管理者、職員は毎日の生活支援の中で、観察記録、情報交換により把握をしている。また本人に出来る事はして頂こうと声掛けするものの無理に作業、レクリエーション等に誘わないようにし、様子を観察をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の意向を大切に、介護の統一化をするため、全員でのカンファレンスを行い、その結果をプランに反映をさせながら、本人に合うケアプランを全員で検討し作成をしている。また退院時には特に病院側とこれから本人の機能アップについても協議をプランに繋げています。	毎月のケアカンファレンスによる個別ケアの検討や、3ヵ月毎のモニタリングにより継続可否を見極めている。定期的な見直しは更新時としているが、退院に向け家族・主治医・ホーム側等と話し合う等入居者に関わる関係各位との随時の意見交換をもとにプランを作成している。入居者個々の個別的且つ詳細なプランが作成されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践にあたり、本人の変化を直ぐに気づく様な洞察力を養いながら、職員全員が記録により情報の共有をしている。また、引き継ぎも何回も行い、事故がないよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅希望の利用者が家族の都合で向かえないとき自宅までの送迎や、個々の買い物などの支援等をしている。また、法事等の時は付添にて対応している。家族が忙しい時はこちらから本人を家まで送りお互いに安心できる環境を作っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長、民生委員、ボランティアの訪問を地域に呼びかけたり、非常時の対応について消防署、行政に指導を仰いだり、共同訓練をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは常に密な連絡、連携体制がとれており定期的にホームを訪問、熱発時には往診など日曜日でも対応をいただいている。また、緊急対応時には救急車の手配等行って頂く事もあります。突発的な受診をした翌日8時頃、必ず、状態把握の電話を頂いています。	家族の了解のもと協力医をかかりつけ医とし、定期往診が行われている。専門医についてはそれぞれの希望される医療機関や、協力医も必要に応じて検査が可能な医療機関への紹介による受診など適切な医療を支援している。日常の健康管理を徹底し、入居者の表情や動き等観察力を生かしながら異常の早期発見に努め、気になることがあれば協力医へ相談を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の心身状態の変化を見逃さないように、気付いた情報を看護師に伝え、利用者が適切、迅速に処置を受けられるように協力医と連絡をとり訪問看護利用をうけられるように支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の状況を医療機関に報告し、入院時には看護師、担当医に治療状況の把握をしている。また利用者に安心感を与えるため、職員が毎日のように面会に行き、声掛けや食事の介助など支援している。また退院時にはDrに連絡が取れるようお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて、契約時に出来ること出来ないことを家族に伝えている。またホームで出来る支援を家族、かかりつけ医、管理者、職員と協議し医師の指示の下に支援をしている。また医師より終末期に向け家族と職員に今の利用者の状態、これからの流れ等を説明してもらっている。	入居時にホームの方針を伝え、その後重度化の状態になった時点で家族と話し合っている。高齢の入居者を支えていく上で重度化・終末期は避けられないものとして捉え、緊急時対応も含め、常に必要な研修し、看取りに関しては、ホームのケアマネジャーを講師として実施している。職員は重度化し食欲や水分摂取が減少した方への対応など、できることを共有しながらケアにあたっている。日常の医療支援に加え、終末期支援に関して協力医の存在は大きく、家族や職員からも絶大な信頼が寄せられている。	看取りの研修の中で夜勤時やまだ未経験から不安を話す職員も多いようである。今後も職員のメンタル面や、本人・家族の意向を大切にしながらホームにできる支援を継続いただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網により各職員へ連絡し、初期対応をしている。消防署、協力医を招き講習をおこなっている。また、緊急時に備えマニュアルをよく見える所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の訓練には自治会、消防署、消防団に参加を呼びかけている。マニュアルの掲示、説明を定期的に行っている。特に当園は水害が考えられないため、地震時の対応の仕方をミーティングで話しています。10日に一回防火点検を行っている。またAED設置もインフォメーションに掲示している。	今年度は毛布を使った自主避難訓練を実施しており、総合訓練を3月に予定している。1・10・20日には、安全点検を実施する他、火元チェックや使用しないコンセントのプラグにはキャップを付けている。今回の熊本地震では、ホームに大きな被害はなかったものの、あらためて自然災害の恐怖を知ることとなり、外部での研修会に参加している。	消防署より自主訓練についても報告を行って欲しい指導を受けている。また、外部研修に参加した職員の報告書には優先順位を付けての避難や入居者の安全が第一であることなどが記されており、今後の災害対策に活かしていけることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊重やプライバシー保護は家族にも十分に説明し、写真の使用を了解をもらっている。また、利用者の方が傷つかないような声掛け、声の大きさなど特にトイレ誘導等羞恥心を損ねないよう対応をしている。	入居者への対応は尊厳やプライバシーに配慮することを職員間で共有し、方言を交えながらも馴れ合いにならないよう注意している。居室内の排泄用品や、日中使用しないポータブルトイレにクロスをかけるなど配慮している。職員の守秘義務については、入職時や日常の中で施設長より指導されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が話しやすいような雰囲気をつくり、ゆっくりとした時間の中で希望を聞き、自ら決定できるような促しをしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切にし、誘うときも無理に誘うことなく、何をしたいか希望を聞き自分のペースで日々を過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向により衣類の決定をしてもらったり、買い物時も本人同行し購入してもらっている。行事ごとに化粧や飾りなどでおしゃれをもらっている。美容室も送迎の対応もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平均が91歳とご高齢になり、自分の要求もなぬなって居りますので、口当たりが良い物を調理担当が季節や行事に合わせて作っている。利用者の方が〇〇が食べたいと申し出があると急に献立を変えることもある。	入居者の希望や旬の野菜等取り入れながら献立を作成し、担当職員が調理を行っている。入居者が好まれるメニューの一つに丼物があり、具材を変えながら提供したり、月1回は好評の刺身も出されている。入居者の中にはエプロンをして手際よく洗い物をされる方、「今日の茶碗蒸しは美味しかね！」など味の評価をされる方等できる事で食へ関わっている。昼間面会に来られた家族にも、食事を勧め味や現状を見てもらうこともあり、職員との会話の弾む食事である。	職員は入居者と一緒に食事を摂っており、今後も一人ひとりの表情や発言などから、状況に応じた席の配置を検討頂きたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に応じた料理形態で提供している。また食事の摂取量が少ないときは、かかりつけの医師に相談し高カロリー食品で対応をしている。また水分の摂取は利用者の好みの飲み物やゼリーで対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを各自して頂いているが、最終チェックは職員が行っています。出来ない人は職員が対応している。週に3回ほどの入れ歯の消毒をおこなっている。また歯科医師も往診に口腔内のチェックに来て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに定期的な声掛けを周りに配慮しながらトイレ誘導している。また本人の様子や行動のパターンで判断している。全介助の方には二人でトイレ介助を行っている。	排泄チェック表で把握したパターンをもとに、声かけや誘導を行い、全介助の方も日中は2名でトイレでの排泄を支援している。布パンツやリハビリパンツ、おむつなど、排泄用品も様々であるが、パットの併用など個々の現状に応じたものを検討しながら使用している。また、業者による排泄用品の講習会を開催し、ケアに活かしている。トイレ内は臭気や清潔を心がけ、朝と昼食後や汚れに気づいた職員がその都度掃除を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表にて排泄状況を把握し水分補給、適度な運動に実施をしている。料理の工夫や牛乳、ヨーグルトの摂取等をしてもらっている。またかかりつけの医師の指示をいただいて状況を連絡しながら薬の調節指示を頂いています。お腹のマッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望、体調に合わせて隔日が入浴をして頂いている。希望で毎日入浴可能。また菖蒲湯、ゆず湯など季節の湯を楽しんで頂いている。入浴は職員2名体制で事故がないよう努めている。	週3回を目処にした入浴は食後の休憩を取ってもらうために午前としたり、午前・午後通した支援などユニットの状況で行い、汚染時はその都度対応している。身体機能の低下から、二人介助も多くなっている現状であるが、職員が話をしたり、笑いも交えながらゆっくりと入ってもらえるようにしている。1月2日の初風呂を伝えたり、全員が味わえるよう2日間取り組む季節のゆず湯支援、順番を決め一番風呂を全員が楽しむよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に過ごしてもらっているが、昼ね等時間が長い人は昼夜逆転にならないように気分転換に散歩に誘っている。夏、冬の室温の調整もこまめにし安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬については説明書を参考に服薬の支援をしている。かかりつけの医師に薬の見直しをお願いし、量を減らしてもらっています。副作用の症状等あれば直ぐに医師に報告し改善をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の持てる能力を生かし、自分なりの役割分担を決めてもらっている。褒めることや御礼をいうことでやりがいを感じてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調に合わせて天気が良いときには近くの公園への散歩や物産館への買い物の手伝いをしてもらっていますが、皆さんご高齢になってきていらいやいますので、9名全員での外出と言うのは難しくなっています。定期受診時にドライブがてら、自宅に行かれたり、外食をされたりしています。	入居者の高齢化により全員での外出は困難になっており、敷地内や近隣公園の散歩、物産館でおやつや食材購入など個別に支援している。受診も外出の機会として、ドライブを楽しんで帰園している。また、季節の良い時はデッキでお茶の時間を持つなど、外出が減った方にも外気に触れる機会を持っている。家族の協力としては、面会時に散歩をされる方もおられる。地域のまつりやイベントには可能な限り出かけており、桜見物も名所である市房山に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小金額の所持は家族の合意で認めている。また、預かり金の使用は残高の報告としてコピーを請求書と一緒に送付しています。本人希望のときは買い物の支援を一緒にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用していただいているがあまり長話にならないようにしている。電話使用は不穩時が多いためにご家族様には心配ないよう状況の報告をしている。暑中見舞い年賀状の作成支援をしている。また筆の代筆も行っている。の希望があれば行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に安全、清潔に努め、玄関、リビングには職員が持ってきた生花があり季節感をだしている。また玄関には加湿器による感染予防の樹液をミスとしています。利用者は光、音、温度に敏感であるため常に配慮をしている。壁には工作がしてあり利用者と職員の大作である。冬場は廊下が冷えるためにストーブの使用もあります。	ホーム内は職員の持ち寄った草花や、入居者の作品、飾り物などにより季節を醸し出し、掃除や換気、状況や季節に応じた室温管理を徹底し、廊下は特に冷え対策としてファンヒーターを設置している。入居者それぞれの本年の目標を掲げたユニットや、廊下の窓から広がる田園風景を眺めるユニットなど、それぞれが工夫や特徴を活かしながら居心地のよい共用空間を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室が南向きで日当たり良好なので自室で過ごされる方もいらっしゃいます。廊下には小人数で腰掛られる作り付けのベンチがあり、休憩しながら利用者同士でお話をされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自由に使ってもらっています。自分が親しみを持った筆筒やドレッサーなどを持ち込み環境の変化を抑えている。壁にも写真等たくさん貼ってもらっている。必要時には加湿器の準備もある。仏壇の持ち込みもある。	入居時の持ち込み品はしおり(衣類・雑品・写真や趣味の物、家具・寝具など明記)をもとに説明を行っている。収納は家具や搬送に負担のないプラスチックケースも多くなっており、思い出の写真や寝具も量や種類が本人に応じて準備されている。なるべく家族の訪問は部屋で過ごしてもらい、衣類や物品を確認してもらおう働きかけ、衣替えも依頼しているが、現状ではホームが中心になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、風呂などに手すりを付けて安全性を高めている。また部屋にはネームをつけたり、便所、浴室等のプレートがある。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393100013		
法人名	株式会社 ケア サポート		
事業所名	グループホーム 若葉園(南館)		
所在地	熊本県球磨郡多良木町多良木1537		
自己評価作成日	平成29年2月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本3丁目13-12-205号		
訪問調査日	平成29年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多良木駅から徒歩で3分のところに位置し、周りにはえびす温泉、えびす物産館、多目的グラウンド等が集まり、環境にはやさしい雰囲気があり利用者の皆様のケアには大変すばらしいところです。同敷地内に小規模多機能ホームわかば園があり、敬老会、運動会などお互いに行き来し交流を深めています。また小規模のホームの隣には共生施設があり、放課後学童保育が行われています。子供たちの「ただいま～」の声を聞く事を楽しみに学校から帰ってくるのを皆さん待っています。学童の子供たちは、夏休みや行事があるたびに駆けつけてくれ、高齢者とのふれあいを大切にしてくれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(南館)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアーのよく目に付くところに掲示し職員一人ひとりの目環境に配慮しているとともに、ミーティング時に理念に沿ったサービスが出来ているか確認し合い、サービスの向上に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、祭り等に参加したり、学童保育や共生施設の利用によりグループホームにも出入りが増えてきている。徘徊、声掛け訓練に散歩かたがた参加されております。町内はもとより、町外からの体験学習の受け入れもし、交流は確実に増えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	若葉園グラウンドゴルフ大会は今年は震災のため中止しました。地区の寄り合い等に参加した時には、短時間の認知症の話をさせてもらっている。町の民生委員の研修時当施設でおこなわれ、認知症の特徴、行動等話しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーは行政、地域包括、区長、民生委員、家族代表、利用者代表と多彩で、全員の方を指名し意見を述べてもらいます。今年も看とりについて園側、利用者家族の意見、要望等について話しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場が大変近くにあるので、行政からの情報等は直ぐに連絡をいただいています。園からは、電話等でも報告を聞いて頂いたり、また、役場に出かけ相談等を気軽にしております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の尊厳を第一に、身体拘束、虐待の勉強会を行い、実践に繋げている。また、外出の希望があれば職員付き添いで散歩をしている。夜間施錠が基本としている。リビングには事故0の表示をし、転倒防止のケアに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んだことは運営推進会議や社内研修時に報告をし、虐待に対する考え方を認識してもらっている。また、手のあざ等介護際につく内出血等、介護の工夫も話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本人が自らの意思を表現できるように、感情や顔の表情に注意しながら支援をおこなっている。成年後見制度の利用はないが、研修会に参加し、社内ミーティングにて制度について話をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には契約書、重要事項説明書の内容を十分に説明し、看とりに関しては主治医、家族、職員同時にカンファレンスを行い、家族の意向を十分に聞き取り進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の方とコミュニケーションをとり意見を聞きだす事に努めている。また、管理者が面会の家族に直接対話し、要望等伺っている。また、家族会が中断となって居りますので復活を目標に考えています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体朝礼の時に代表者は経営や運営の意向を伝えまた、各棟のミーティングを行い要望や問題等を、リーダーミーティングの際には相談や意見を受け入れてもらっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の個々の能力を出せるような研修参加や環境を作りを行い出来るだけ残業等はしないように退帰時間の厳守を指導している。処遇改善手当は毎月の基本給に手当として加算して支払をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修はもとより資格取得の費用を全額会社負担とし、仕事に対するやる気と自信を持ちながら業務に就けるように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ではグループホーム協議会が組織され2ヶ月に1回の研修会と、12月には忘年会が開催され、交流も盛んである。また、各GHを利用者と一緒に訪問し交流を行っています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所まえの聞き取を参考に本人と家族の不安、要望を聞き取り、安心して生活できるようにカンファレンスにて介護の統一をはかりプランに反映をさせている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より家族の方に園内見学をしてもらい園での雰囲気を感じてもらっている。月末に一月分の利用者の方の生活、体調、行事等、担当者が書面にて報告をしている。病気、事故等はその都度連絡を入れています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所直後、暫くは頻繁に連絡を取り合ったり面会を促したりして利用者の方が一日でも落ち着き、早くなれていただくように支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできること(掃除、洗濯物干し、たたみ野菜の皮むき、刻み)などできることを職員と一緒にしたり、他利用者のお世話をしている場面も見られます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事ごとに家族の方をご案内し、利用者、家族、職員の信頼関係をつくりお互いに何でも言える環境を作っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人面会時には記念写真をとり双方に渡し、再度の来園をうながしたり、出身地域へのバスハイク、多良木町のえびす祭り等に参加し神輿の声援なども行っている。親戚関係の集まりの時は家族または職員が付き添いで出かける支援をしている。不穏が生じたら自宅まで同行し落ち着かれるまでごいっしょします。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個々の性格や意向を汲み取り、席の配置をかんがて気分良く生活をしていただいている。利用者間のトラブルの際は職員が直ぐに間に入る様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、ご家族様が遠方のために家族さまに代わり、病院へ伺い状況をお話している。定期的に病院、施設を訪問し面会をし、そのたびに家族との連絡をとりあっている。また相談にも対応をしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成者は入居前のアセスメントにより本人の希望、意向を確認し、入居後も必要時にカンファレンスを実施し本人の意向の把握するようにしている。意思の疎通が困難な場合は家族との意見交換や入居後の行動、表情などで判断している。職員に合わせた介護でなく本人主体で支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の本人、家族、CM等のアセスメントにて生活歴、嗜好、サービス利用の過程等詳しく聞き取り把握をしている。また面会のときに職員からの生活パターンを再確認をしたり、様子を見ながらサービスのへんこうをしながら本人が快適に暮らせるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	管理者、職員は毎日の生活支援の中で、観察記録、情報交換により把握をしている。また本人に出来る事はして頂こうと声掛けするものの無理に作業、レクリエーション等に誘わないようにし、様子を観察をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の意向を大切に、介護の統一化をするため、全員でのカンファレンスを行い、その結果をプランに反映させながら、本人に合うケアプランを全員で検討し作成をしている。また退院時には特に病院側とこれから本人の機能アップについても協議をしプランに繋げています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践にあたり、本人の変化を直ぐに気づく様な洞察力を養いながら、職員全員が記録により情報の共有をしている。また、引き継ぎも何回も行き、事故がないよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅希望の利用者が家族の都合で向かえにこれないとき自宅までの送迎や、個々の買い物などの支援等をしている。また、法事等の時は付添にて対応している。家族が忙しい時はこちらから本人を家まで送りお互いに安心できる環境を作っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長、民生委員、ボランティアの訪問を地域に呼びかけたり、非常時の対応について消防署、行政に指導を仰いだり、共同訓練をしている。今回は徘徊、声掛け訓練を行いました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは常に密な連絡、連携体制がとれており定期的にホームを訪問、熱発時には往診など日曜日でも対応をしていた。また、緊急対応時には救急車で病院まで付き添って頂いてもらい、利用者・職員もたすかっています。看取り時にも先生が付き添って頂き職員もご家族様も安心しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の心身状態の変化を見逃さないように、気付いた情報を看護師に伝え、利用者が適切、迅速に処置を受けられるように協力医と連絡をとり支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の状況を医療機関に報告し、入院時には看護師、担当医に治療状況の把握をしている。また利用者に安心感を与えるため、職員が毎日のように面会に行き、声掛けや食事の介助など支援している。また退院時にはDr.看護師とカンファレンスを行い、定期的に園に来て頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて、契約時に出来ること出来ないことを家族に伝えている。またホームで出来る支援を家族、かかりつけ医、管理者、職員と協議し医師の指示の下に支援をしている。医師より家族と職員に今の利用者の状態、これからの流れ等を説明してもらっている。職員に対し終末期の介護支援の講習をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署、協力医を招き講習をおこなっている。また、緊急時に備えマニュアルをよく見える所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の訓練には自治会、消防署、消防団に参加を呼びかけている。マニュアルの掲示、説明を定期的に行っている。特に当園は水害が考えられないため、10日に一回防火点検を行っている。またAED設置もインフォメーションに掲示している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊重やプライバシー保護は家族にも十分に説明し、写真の使用を了解をもらっている。また、利用者の方が傷つかないような声掛け、声の大きさなど特にトイレ誘導等羞恥心を損ねないよう対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が話しやすいような雰囲気をつくり、ゆっくりとした時間の中で希望を聞き、自ら決定できるような促しをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切に、誘うときも無理に誘うことなく、何をしたいか希望を聞き自分のペースで日々を過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向により衣類の決定をしてもらったり、買い物時も本人同行し購入してもらっている。行事ごとに化粧や飾りなどでおしゃれをもらっている。美容室も送迎の対応もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に嗜好調査を反映し、季節や行事に合わせてたりしている。利用者の方が〇〇が食べたいと申し出があると急に献立を変えることもある。また下ごしらえや配膳、洗い物等職員と一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に応じた料理形態で提供している。また食事の摂取量が少ないときは、かかりつけの医師に相談し高カロリー食品で対応をしている。また水分の摂取は利用者の好みの飲み物で対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを各自して頂いているが、最終チェックは職員が行っています。出来ない人は職員が対応している。毎日入れ歯の消毒をおこなっている。また協力歯科医師も定期的に口腔内のチェックに来て頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに定期的な声掛けを周りに配慮しながらトイレ誘導している。また本人の様子や行動のパターンで判断している。全介助の方には二人で介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表にて排泄状況を把握し水分補給、適度な運動に実施をしている。料理の工夫や牛乳、ヨーグルトの摂取等をしてもらっている。またかかりつけの医師の指示をいただいで状況を連絡しながら薬の調節指示を頂いています。お腹のマッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人の希望、体調に合わせて隔日で入浴をして頂いている。希望で毎日入浴可能。また菖蒲湯、ゆず湯など季節の湯を楽しんで頂いている。入浴は職員2名体制で事故がないよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に過ごしてもらっているが、昼ね等時間が長い人は昼夜逆転にならないように気分転換に散歩に誘っている。夏、冬の室温の調整もこまめにし安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬については説明書を参考に服薬の支援をしている。かかりつけの医師に薬の見直しをお願いし、量を減らしてもらっています。副作用の症状等あれば直ぐに医師に報告し改善をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の持てる能力を生かし、自分なりの役割分担を決めてもらっている。褒めることや御礼をいうことでやりがいを感じてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調に合わせ天気が良いときには近くの公園への散歩や物産館への買い物の手伝いをしてもらっていますが、皆さんご高齢になってきていらしゃいますので、9名全員での外出と言うのは難しくなっています。定期受診時にドライブがてら、自宅に行かれたり、外食をされたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小金額の所持は家族の合意で認めている。また、預かり金として小遣いを預かっているため本人希望のときは買い物の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用していただいているがあまり長話にならないようにしている。電話使用は不穏時が多いためにご家族様には心配ないよう状況の報告をしている。暑中見舞い年賀状の作成支援をしている。また筆の代筆も行っている。の希望があれば行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に安全、清潔に努め、玄関、リビングには職員が持ってきた生花があり季節感をだしている。また利用者は光、音、温度に敏感であるため常に配慮をしている。壁には工作がしてあり利用者と職員の大作である。冬場は廊下が冷えるために邪魔にならないところにストーブの設置をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室が南向きで日当たり良好なので自室で過ごされる方もいらっしゃいます。廊下には小人数で腰掛られる作り付けのベンチがあり、休憩しながら利用者同士でお話をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自由に使ってもらっています。自分が親しみを持った筆筒やドレッサーなどを持ち込み環境の変化を抑えている。壁にも写真等たくさん貼ってもらっている。必要時には加湿器の準備もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、風呂などに手すりを付けて安全性を高めている。また部屋にはネームをつけたり、便所、浴室等のプレートがある。		